

# 発達障害の特徴

コミュニケーション 情緒 社会性

## 特性と配慮の視点

相模原療育園 理学療法士 深澤宏昭



## 発達障害と理学療法の関わり

### 理学療法士の役割

- 身体・運動・感覚を軸に、こどもの課題を評価し、「姿勢」「運動」「身体づくり」「生活動作」「発達」の側面からこどもと家族を支援する

### 「発達障害」は、運動面だけの問題ではない

- 認知発達、発達段階、特性、情緒、環境など、多面的な評価が必要である

なぜ理学療法士は、特性を把握することが必要なのか？

- こどもの運動の不器用さの原因や要因を理解するため
- こどもの背景にある特性を把握し、日常生活の困難さに寄り添うため
- 多職種チームで連携し、包括的な支援を行うため

**こどもの運動機能だけでなく、日常生活の困難を多面的に捉え、  
全般的な発達や特性を把握しながら支援を行うことが重要**

# 発達障害の特性

## 「特性」とは？

- 生まれつき持っている性質、特徴

コミュニケーションや人との関わり方、過度なこだわり、想像力の弱さ、感覚の感じ方の偏り、不注意、多動性、衝動性などが含まれ、これらの特性の表れ方は個人によって異なる。

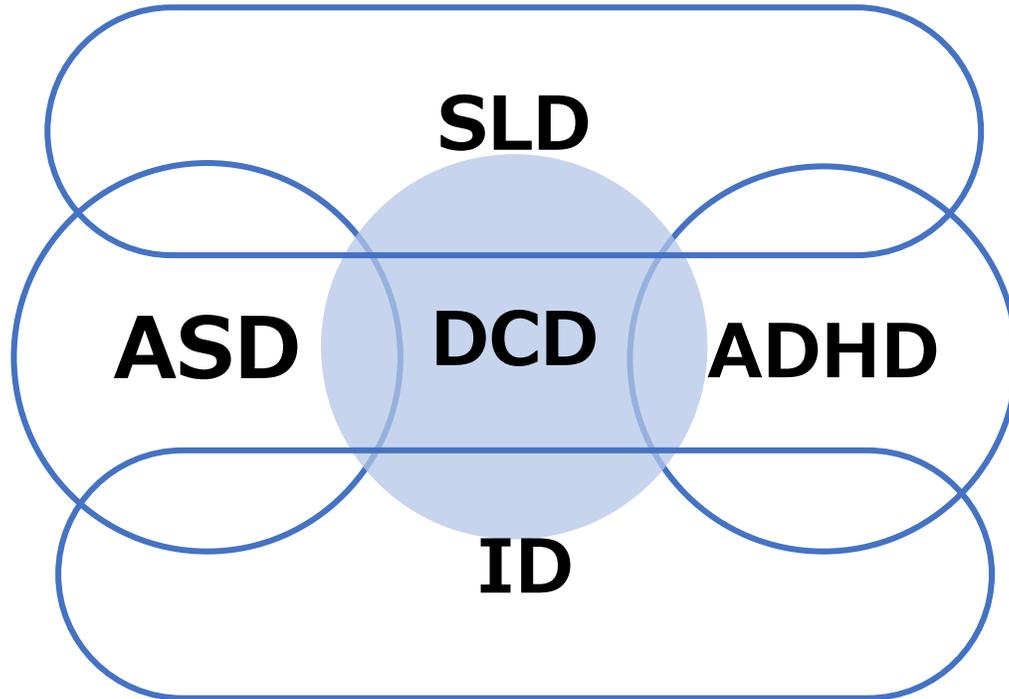
## 特性は重複する

- 特性は重複して表れる
- 特性はあるが診断閾値未満であったり、診断基準を満たすが複数の診断がついていない
- 最初から特性は重複しているという視点を持って関わる必要がある

## 特性は変化する

- 環境やライフステージによって、特性が強く表われたり、目立たなくなったりする

## 発達障害の診断と特性



■ 診断は併存することがある

### ASD：自閉スペクトラム症

- ・社会的コミュニケーションの困難さ
- ・こだわりの強さ（行動や興味、限定された活動）
- ・感覚異常

### ADHD：注意欠如多動症

- ・不注意
- ・衝動性/多動性

### SLD：限局性学習症

- ・読み書き、計算の困難

### DCD：発達性協調運動症

- ・運動技能における遂行の遅さと不正確さ
- ・日常生活活動が著名に持続的に妨げられている



運動の不器用さがあることで生じやすい悪循環

**身体をうまく動かせない**



**遊びが苦手 運動が苦手 セルフケアが苦手**



**精神・心理・社会面への影響**

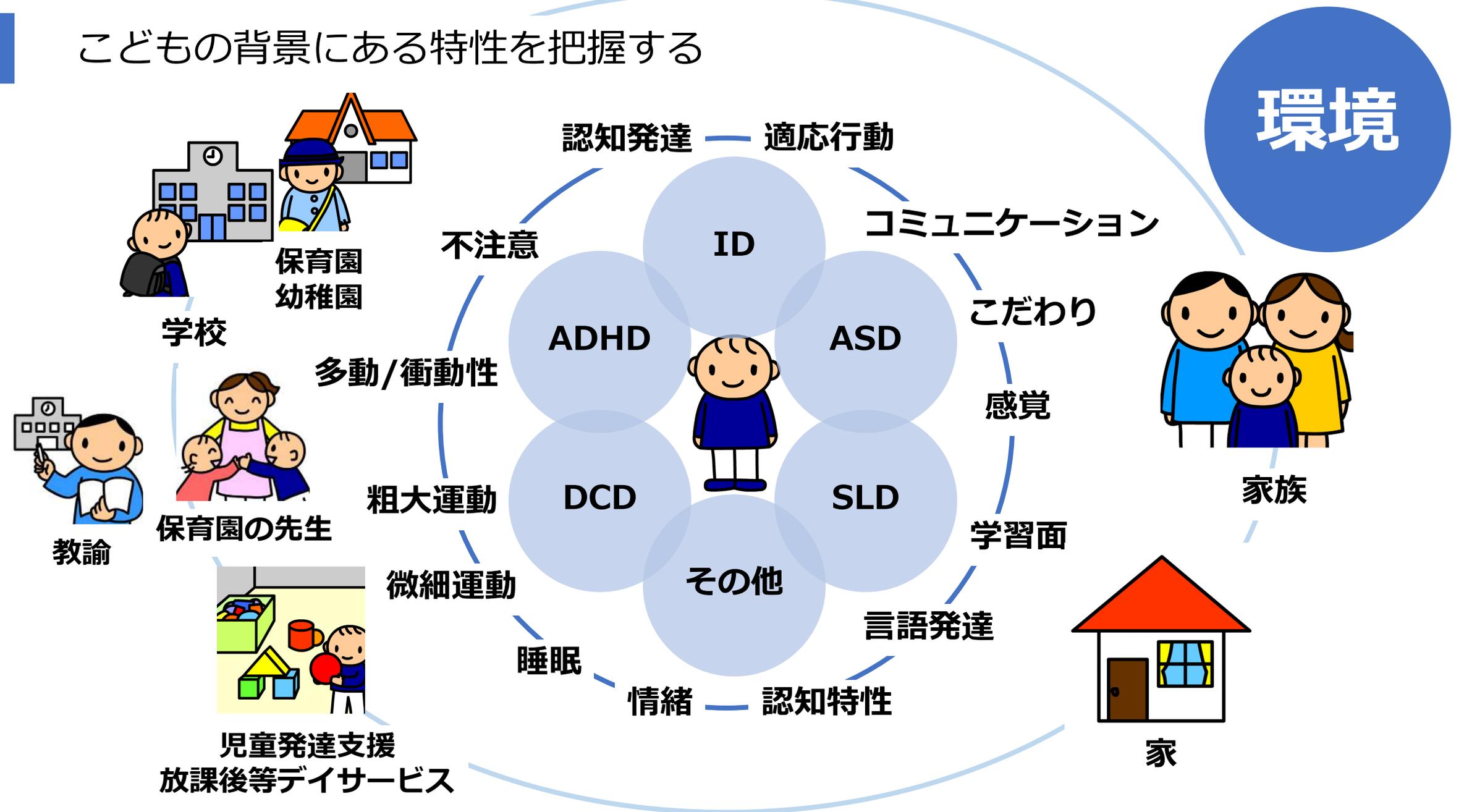
**活動量の低下 や 肥満への影響**



**チャレンジの困難 自己概念 自己効力感の低下**

**心理社会的な課題へのリスクが高まる**

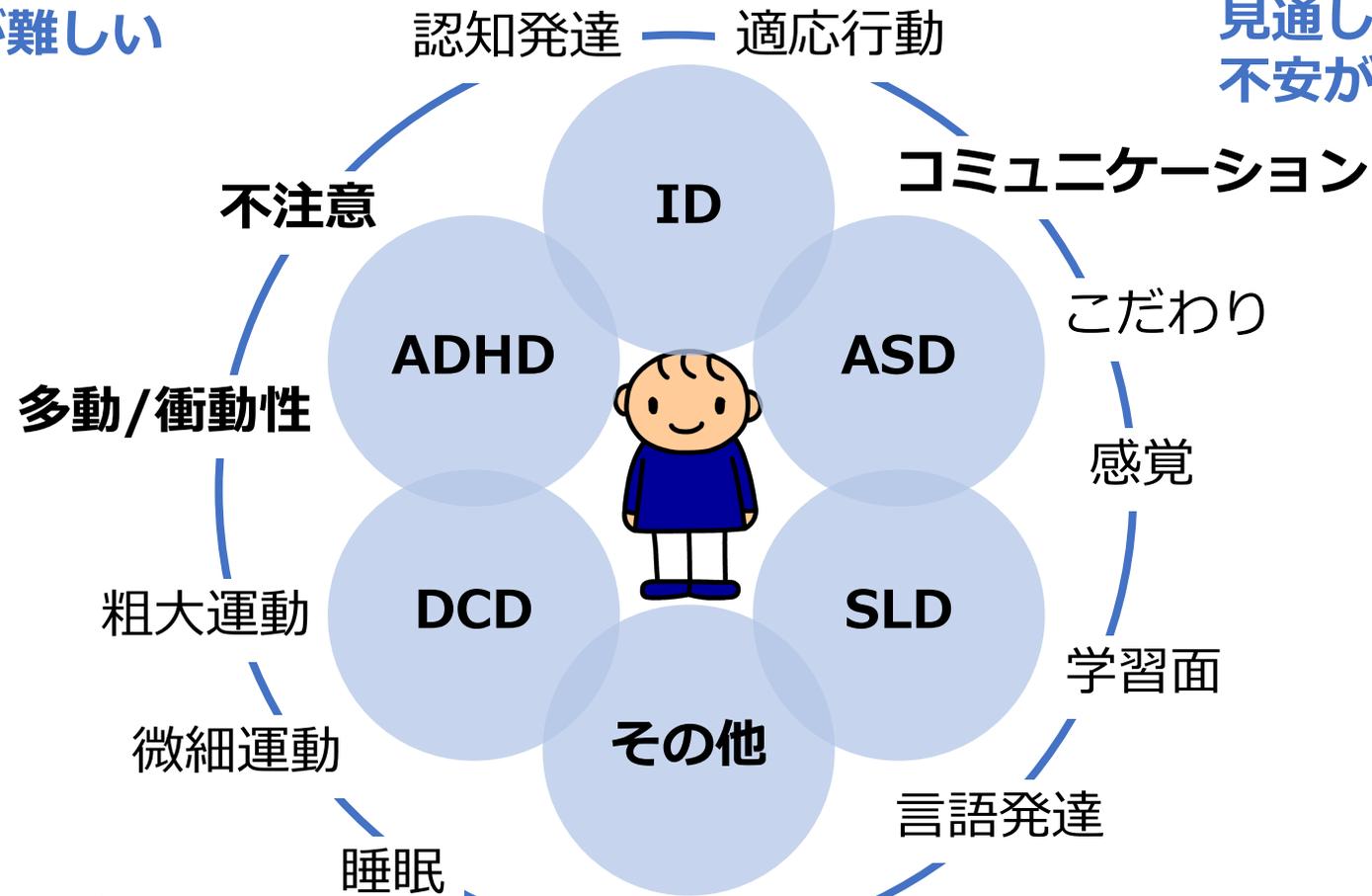
# こどもの背景にある特性を把握する



# こどもの背景にある特性を把握する：一例

集中し続けることが難しい  
待つことが難しい

見通しがないことに対する不安が強い



緊張しやすい、自信がない  
新しい活動へ参加したがる

目で見える情報が理解しやすい

## 理学療法を行う上で、こどもの「特性」への配慮の一例

- 目で見える情報が理解しやすい

### **視覚的に分かりやすく提示**

- ▶ 手本、手順、画像、映像

- 集中し続けるのが難しい

### **気が散らない環境を調整 課題の難しさを調整**

- 見通しを持ちにくい
- 待つことが難しい

### **事前に予告する スケジュールを決める**

- 新しい活動へ参加したがるらない

### **こどもの興味関心を活用 大人も一緒に遊ぶ**

## 理学療法を行う上で、こどもの「情緒面」への配慮の一例

- 不安が強い
- 緊張しやすい
- 自信がない

### **エラーレスラーニング**

- ▶ 失敗しないように学習経験を積む

### **課題の難しさを調整**

- ▶ こどもが自信を持ってできる課題から

### **経験のないことは予習をする**

# こどもの得意・苦手を知るための評価法の紹介

## **SDQ** Strength and Difficulties Questionnaire 子どもの強さと困難さアンケート

- SDQは、親または学校教師が、子どもの情緒や行動についての25の質問項目を回答する形式の短いアンケート
- 「情緒」、「行為」、「多動/不注意」、「仲間関係」、「向社会性」の下位尺度から構成される

## まとめ

- 運動の不器用さを、専門的に評価するだけでなく、認知発達、発達段階、特性、情緒面、環境など多面的に捉え、日常生活や運動への影響を考慮することが重要である。
- こどもの特性を把握し、多職種チームと連携することで、日常生活の困難に寄り添った支援を行うことが求められる。